日時		場所	会場	公演名	出演者	主催・企画	後援・協賛	入場者数
2013年 平成25年 10月31日 （木）			鵜住居町 長内集会場	**西根中（八幡平市）合唱で交流**	山﨑眞行　（指揮） 西根中学校生徒 126名 鵜住居歌う会			生徒 約170人

2013年（平成25年）11月12日（火曜日）（4）

釜石鵜住居へ思い届ける

西根中（八幡平市）合唱で交流

鵜住居の住民らと歌で交流する西根中の生徒たち

八幡平市の市立西根中（井上博幸校長）の2年生126人が1泊2日の宿泊研修で釜石市を訪問。10月31日は鵜住居町の長内集会所で、合唱などを通じて地域住民らと交流した。

集まったのは、地域住民でつくる「鵜住居歌う会」（竹内敦子代表、会員20人）のメンバーや地域住民ら約30人が集まった。生徒らは同校の校歌や合唱曲「COSMOS（こすもす）」「fight（ファイト）」などを披露。はつらつとした歌声に元気をもらった歌の会は「見上げてごらん夜の星を」を歌い、美しいハーモニーで感謝を伝えた。

全員で「花は咲く」を大合唱。「すいすいずっころばし」の歌に合わせた手遊びなども行い、楽しいひとときを過ごした。樋口トキさん（85）は「子どもはいいね。純粋だね。透き通ってきれいな歌声で感心。涙が出た」と喜んだ。

大槌町で勤務経験がある同校の勝部明美教諭（48）らが「被災地を実際に見て、感じ考えてほしい」と、昨年、1年生の遠足で大槌を訪れた。今年の宿泊研修でも引き続き大槌を選択、釜石まで足を伸ばし、力をもらいながら交流することにした。

30日には大槌の「花壇の植え付けなどボランティア活動、鵜住居町では小中学生が避難した経路をたどり、震災への理解を深めた。学年委員長の佐藤玲香さん（14）は「日常生活ができることを当たり前に感じるきっかけになった。一緒に歌ったり遊んだり、新鮮で楽しい。生徒全員とどんどん続けていきたい」と話した。

勝部教諭は「こういう形で活動を続けるのか、この経験を通しての交流が実現した。

うたうこの会を引き継ぐ形でスタートしたい」と見守った。

「若い歌声から勇気をもらった」感があり、この場を設けてもらえて感慨深いものがある。妻も喜んでいる」と歌の会の田中健悦さん（72）＝背広の胸ポケットに忍ばせていた、昨年10月に病気のため88歳で亡くなった妻、シマ子さんの写真を見詰めた。

鵜住居町で被災したシマ子さんは昨年2月、震災でばらばらになった地域住民を集め、合唱サークル「うたうこの会」を結成。歌うことで地域のつながりを保ちながら活動する一方で、病気をむしばんでいた。闘病しながらも最後まで明るく歌い続けたシマ子さんの思いを受け継ぎ、鵜住居の歌声を守り続ける健悦さんらの活動を、同校の生徒らが知ったことから今回の交流が実現した。

うたうこの会を引き継ぐ形でスタートしたられたり。仮設の生活

歌の会・竹内代表は「見上げ…ここに来れば仲間がいる」と…る元気をもらえた。（復興釜石新聞）

盛岡タイムス

週2回発行

八幡平市から鵜住居へ思い届ける

震災を理解

避難路たどり

西根中生　合唱で交流

鵜住居の住民らと歌で交流する西根中の生徒たち

八幡平市の市立西根中（井上博幸校長）の2年生126人が1泊2日の宿泊研修で釜石市を訪問。10月31日は鵜住居町の長内集会所で、合唱などを通じて地域住民らと交流した。

集まったのは、地域住民でつくる「鵜住居歌う会」（竹内敦子代表、会員20人）のメンバーや地域住民ら約30人が集まった。生徒らは同校の校歌や合唱曲「COSMOS（こすもす）」「fight（ファイト）」などを披露。はつらつとした歌声に元気をもらった歌の会は「見上げてごらん夜の星を」を歌い、美しいハーモニーで感謝を伝えた。

全員で「花は咲く」を大合唱。「すいすいずっころばし」の歌に合わせた手遊びなども行い、楽しいひとときを過ごした。樋口トキさん（85）は「子どもはいいね。純粋だね。透き通ってきれいな歌声で感心。涙が出た」と喜んだ。

大槌町で勤務経験がある同校の勝部明美教諭（48）らが「被災地を実際に見て、感じ考えてほしい」と、昨年、1年生の遠足で大槌を訪れた。今年の宿泊研修でも引き続き大槌を選択、釜石まで足を伸ばし、力をもらいながら交流することにした。

30日には大槌の「花壇の植え付けなどボランティア活動、鵜住居町では小中学生が避難した経路をたどり、震災への理解を深めた。学年委員長の佐藤玲香さん（14）は「日常生活ができることを当たり前に感じるきっかけになった。一緒に歌ったり遊んだり、新鮮で楽しい。生徒全員とどんどん続けていきたい」と話した。

勝部教諭は「こういう形で活動を続けるのか、この経験を通しての交流が実現した。

うたうこの会を引き継ぐ形でスタートしたい」と見守った。

「若い歌声から勇気をもらった」感があり、この場を設けてもらえて感慨深いものがある。妻も喜んでいる」と歌の会の田中健悦さん（72）＝背広の胸ポケットに忍ばせていた、昨年10月に病気のため88歳で亡くなった妻、シマ子さんの写真を見詰めた。

鵜住居町で被災したシマ子さんは昨年2月、震災でばらばらになった地域住民を集め、合唱サークル「うたうこの会」を結成。歌うことで地域のつながりを保ちながら活動する一方で、病気をむしばんでいた。闘病しながらも最後まで明るく歌い続けたシマ子さんの思いを受け継ぎ、鵜住居の歌声を守り続ける健悦さんらの活動を、同校の生徒らが知ったことから今回の交流が実現した。

うたうこの会を引き継ぐ形でスタートしたられたり。仮設の生活

歌の会・竹内代表は「見上げ…ここに来れば仲間がいる」と…る元気をもらえた。（復興釜石新聞）

復興釜石新聞
2013年11月9日

NPO法人ガバチョ・プロジェクト
スタッフ

山﨑眞行
山﨑詔子
田中健悦
合田節子
高鷹キエ

鵜住居歌う会